



緑の風



学校は、もうクリスマス

学校教育目標「夢に向かって 心豊かに たくましく生きる子ども」
～“自分で考え みんなと創る” 楽しい ふるさとの学校～

2度目のPTA 参加率98%！ すごい学校です！



1年生・算数
子どもが説明する授業



2年生・道徳
子どもが考える授業



3年生・算数
子どもたちが学び合う授業



4年生・国語
みんなと創る授業



5年生・外国語
ALTと教科の英語学習



6年生・家庭科
母さんと本物の家庭の学習



あゆみ学級・生活単元
家族と一緒に楽しい学習

今回も情報モラル教室・授業参観・全体会・学年懇談と、長い時間にわたってご参加いただきありがとうございます。写真で“みんながってみんないい”各学年の味わい深い授業を紹介しました。

全体会でもお話したように、お互いが頼りにして支え合うという横堀小学校ならではの強みを生かしていきます。

ご家庭からの『見えるエール』と『見えないエール』をこれからもよろしく願います。学校からも子どもたちの笑顔と成長で、どんどんお伝えしていきます。

授業を参観して・・・お子さんは、マスクをちゃんと着けていましたか？

学級懇談でも話題になったかもしれませんが、マスクの着用に課題がある子が全校で10人程度います。たぶん、昨日の授業でも、その様子が見られたことだと思います。

「たかがマスク、されどマスク」

今の状況では、秋田県は全国でも感染が拡大していない特別な地域かもしれませんが、でも、「学校の中では、通常はマスクをする」ということは、ルールです。このことに無頓着だったり、自分だけいいやと甘えたり勝手に判断したりすることは、とても怖いことだと思います。しかも、小学生がきまりを大切にしないということは、身に付けるべき資質・能力がこの段階で備わらないことになります。マスクを窓口に、家庭のルールの「まもり具合」にも目を向けてみてください。

先生方の先生方だけの 授業参観もやっています



実は、先生方も勉強しています。授業参観をしているんですよ。
先生方も、子どもたちの家庭学習の表紙のように、自分の「めあて」をもっています。それを「個人研究」と呼んで、今は1年の研究の成果（よいところ）をみんなで見合っています。秋からは『子どもが子どもにしゃべる授業』をキーワードにして、子どもが主役の授業を目指して研究を進めています。
そして、授業後には参観した先生方の感想（一言コメント）を授業を見せてくれた先生に届けます。そのダイジェスト版で、これまでに行った三つの授業を紹介します。

1 2月3日（木）1校時
1年生・国語・単元名「ものの名まえ」（3／6時間） 指導者・板垣渉先生



「伝え合う」ことを個人研究テーマの柱として、まずは、のびのびと自己表現できる学級経営（学び場づくり）を大切にしてきたことが、授業の中でとてもよく伝わってきました。
「発信」するための素地として、学級の間関係の形成や「話したい・発表したい」という願いは、本来的の子にもある意欲だと考えます。入門期の段階で、この力が身に付いた子どもたちの未来は明るいと思います。

1 2月7日（月）3校時
4年生・理科・単元名「物のあたらまり方」（3／8時間） 指導者・伊藤範子先生



個別の対応をベースとしながら、教科の指導では、どの教科にも自分自身の黒板レイアウトがあることで、子どもたちと共に、常に見通しをもって授業をしています。今回の授業でも、「めあて～予想・見通し～仮説～実験～まとめ」という流れが当たり前のように進められました。そうして、着実に資質・能力を身に付けさせてあげようという、毎日の教材研究にかける熱き思いと誠意あふれる仕事ぶりは、未来の教師たちにも是非学んでほしい姿勢の一つです。
また、私たちの研究をリードする研究主任として、「個人研究テーマ」の「具体的な取組」をしっかりと意識した授業を提示できる当たりも範子先生の強みだと感心しています。

1 2月9日（水）5校時
6年生・道徳・題材名「手品師」（正直・誠実）（1／1時間）指導者・西村浩美先生



教室の中で、誰よりも明るく、元気はつらつなのが担任の西村先生！今回の授業でも、導入から教師の説話まで、そのバイタリティとエネルギーがじんと伝わってきました。
「子どもが子どもにしゃべる授業を」ということを職員室で話題にしてから、6年生の話し方・聞き方に成長が見られます。教室で実践しているからこそ成長していることの証に他なりません。
『誠実』で『すなお』な西村先生と6年生の授業日も50日程度です。得意の「ほめほめ攻撃？」で、楽しい思い出をたくさん共有してください。

あと10日 学校に来れば『冬休み』

雪は少ないですが、冬休みの足音が急に大きくなってきました。
コロナ禍でも“できること”を見極めて、『楽しい冬休み』『伸びる冬休み』を企画してください。

